

香川県の地震

令和6年（2024年）5月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・ 1
地震概況	・・・ 2

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和6年（2024年）6月7日）	・・・ 3
-------------------	-------

地震一口メモ

令和6年4月17日の豊後水道の地震について	・・・ 4～6
-----------------------	---------

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

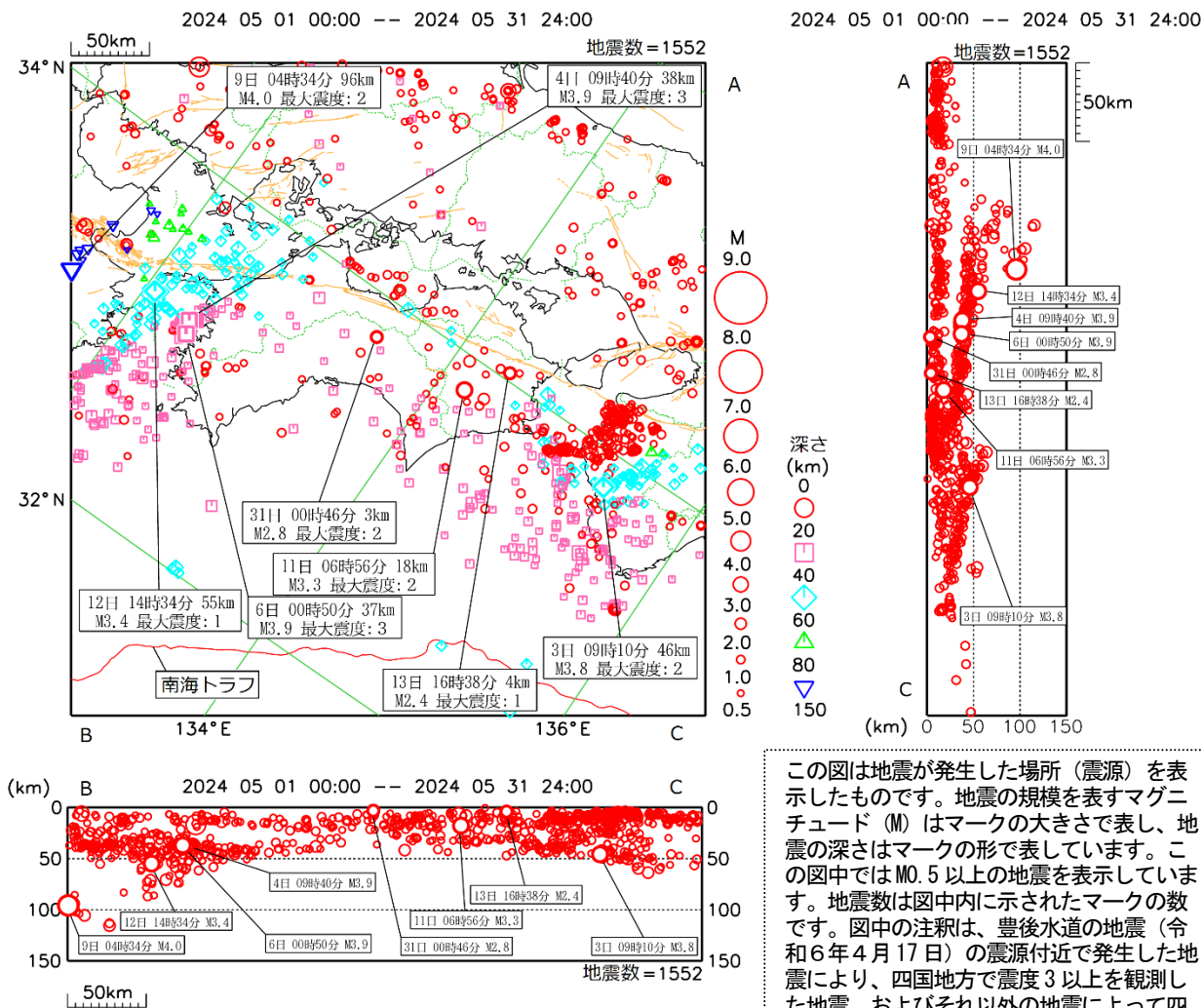
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2024 年 5 月

◎震央分布図、断面図



この図は地震が発生した場所（震源）を表示したものです。地震の規模を表すマグニチュード（M）はマークの大きさで表し、地震の深さはマークの形で表しています。この図中ではM0.5以上の地震を表示しています。地震数は図中内に示されたマークの数です。図中の注釈は、豊後水道の地震（令和6年4月17日）の震源付近で発生した地震により、四国地方で震度3以上を観測した地震、およびそれ以外の地震によって四国地方で震度1以上を観測した地震を表しています。

〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は2回）。

豊後水道の地震（令和6年4月17日）の震源付近で発生した地震により、四国地方で震度3以上を観測した地震および、それ以外の地震によって四国地方で震度1以上を観測した地震は、次の8回でした。

- 3日 09時10分 和歌山県北部の地震（深さ46km、M3.8）により、徳島県美波町で震度1を観測しました。
この地震では、和歌山県みなべ町・田辺市・白浜町で震度2を観測したほか、三重県、奈良県、和歌山県、徳島県で震度1を観測しました。
- 4日 09時40分 豊後水道の地震（深さ38km、M3.9）により、愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度3を観測したほか、愛媛県、高知県、大分県、宮崎県で震度2～1を観測しました。
- 6日 00時50分 豊後水道の地震（深さ37km、M3.9）により、愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度3を観測したほか、愛媛県、高知県、山口県、大分県、宮崎県で震度2～1を観測しました。
- 9日 04時34分 大分県南部の地震（深さ96km、M4.0）により、愛媛県宇和島市、熊本県高森町・阿蘇市、大分県大分市・佐伯市、宮崎県延岡市で震度2を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度1を観測しました。
- 11日 06時56分 徳島県南部の地震（深さ18km、M3.3）により、徳島県美馬市で震度2を観測したほか、徳島県内の数カ所で震度1を観測しました。
- 12日 14時34分 豊後水道の地震（深さ55km、M3.4）により、愛媛県宇和島市・大洲市、大分県豊後大野市で震度1を観測しました。
- 13日 16時38分 徳島県北部の地震（深さ4km、M2.4）により、徳島県佐那河内村で震度1を観測しました。
- 31日 00時46分 高知県中部の地震（深さ3km、M2.8）により、高知県土佐町で震度2を観測したほか、高知県内の数カ所で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

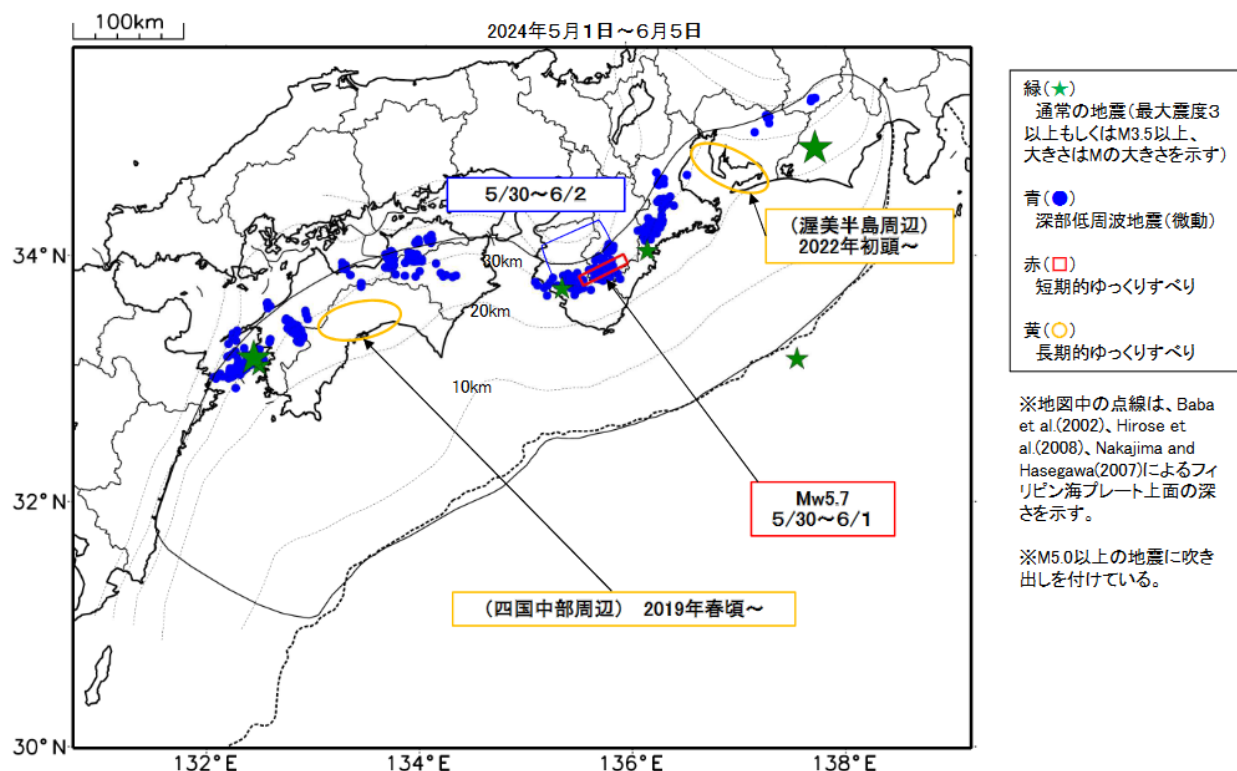
令和6年(2024年)6月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....【渥美半島周辺、四国中部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2406/07a/nt20240607.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

令和6年4月17日の豊後水道の地震について

令和6年4月17日23時14分に豊後水道の深さ39kmでマグニチュード（以下、Mと記載）6.6の地震が発生し、香川県では震度3を観測しました。この地震では、愛媛県愛南町及び高知県宿毛市で最大震度6弱を観測しました（図1）。震度階級が10段階となった1996年10月1日以降、愛媛県及び高知県では最大の震度を観測しました。また、高知県西部で長周期地震動階級2を観測したほか、四国地方、九州地方及び鳥取県で長周期地震動階級1を観測しました。（図2）。

この地震は、フィリピン海プレート内部で発生し、東西方向に張力軸を持つ正断層型の地震でした（図3）。

この地震により、負傷者16人、住家一部破損10棟の被害が発生しました（被害は総務省消防庁による）。また、この地震による津波の発生はありませんでした。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源周辺では、M5.0以上の地震が時々発生しています（図4右中図：1997年10月1日から2024年5月20日までに領域bで発生したM5以上の地震を時系列に並べた図）。

領域bでは、2022年1月22日に、M6.6の地震（最大震度5強）が発生し、負傷者13人、住家半壊2棟、一部破損599棟などの被害が生じました（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央

周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生しています（図5右図：1919年1月1日から2024年5月20日までに領域cで発生したM6以上の地震を時系列にした図）。

1968年8月6日に発生したM6.6の地震（最大震度5）では、愛媛県を中心に負傷者22人、また宇和島の重油タンクのパイプ破損により、重油170klが海上に流出するなどの被害が生じました（被害は「日本被害地震総覧」による）。

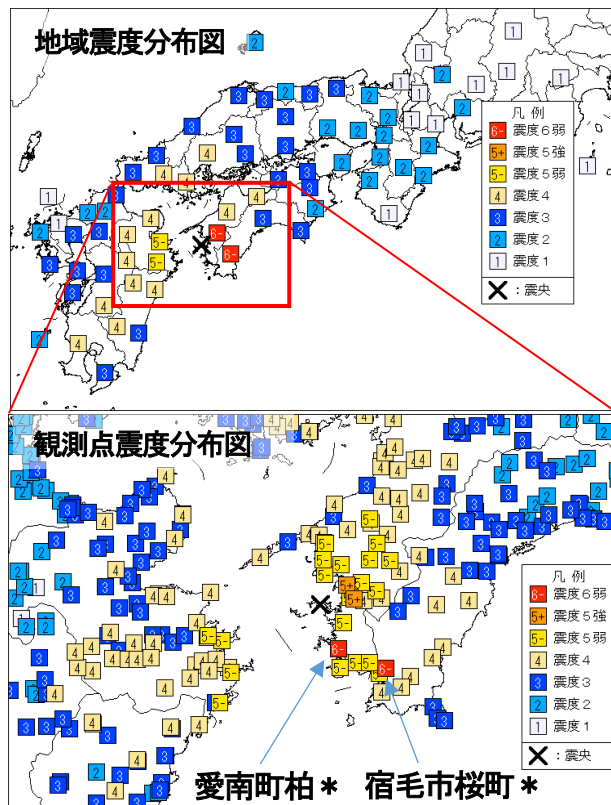


図1 「2024年4月17日23時14分 豊後水道の地震」における震度分布図（*は気象庁以外の震度観測点）

今回の地震は、南海トラフ地震の想定震源域内で発生しましたが、国の評価検討会では、「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません」と評価されています。

地震活動の評価は、フィリピン海プレート内部で発生し、その規模から、南海トラフ沿いのプレート境界の固着状態に特段の変化をもたらすものではないとされています。

しかし、南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、今後30年以内に発生する確率が70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから、切迫性の高い状況に留意が必要です。

今回の地震発生後、地震活動が一時的に活発となりました。地震回数は減少して来ていますが6月1日に最大震度4の地震が発生しているように、当面、地震活動は継続する見込みです。

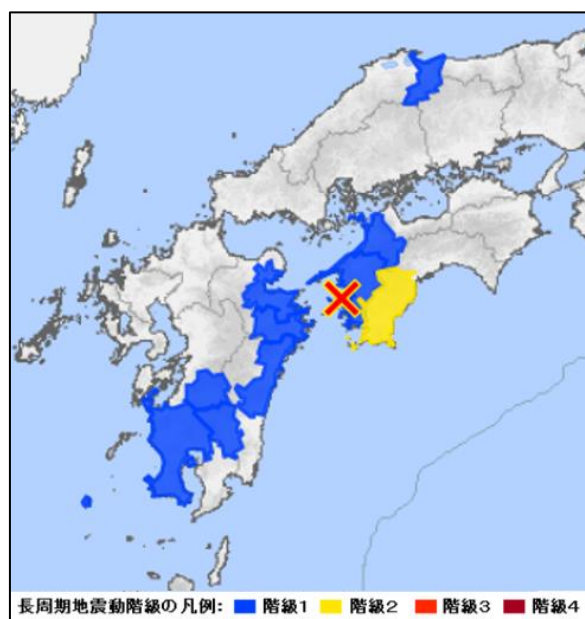


図2 「2024年4月17日23時14分 豊後水道の地震」における、長周期地震動観測情報の発表状況

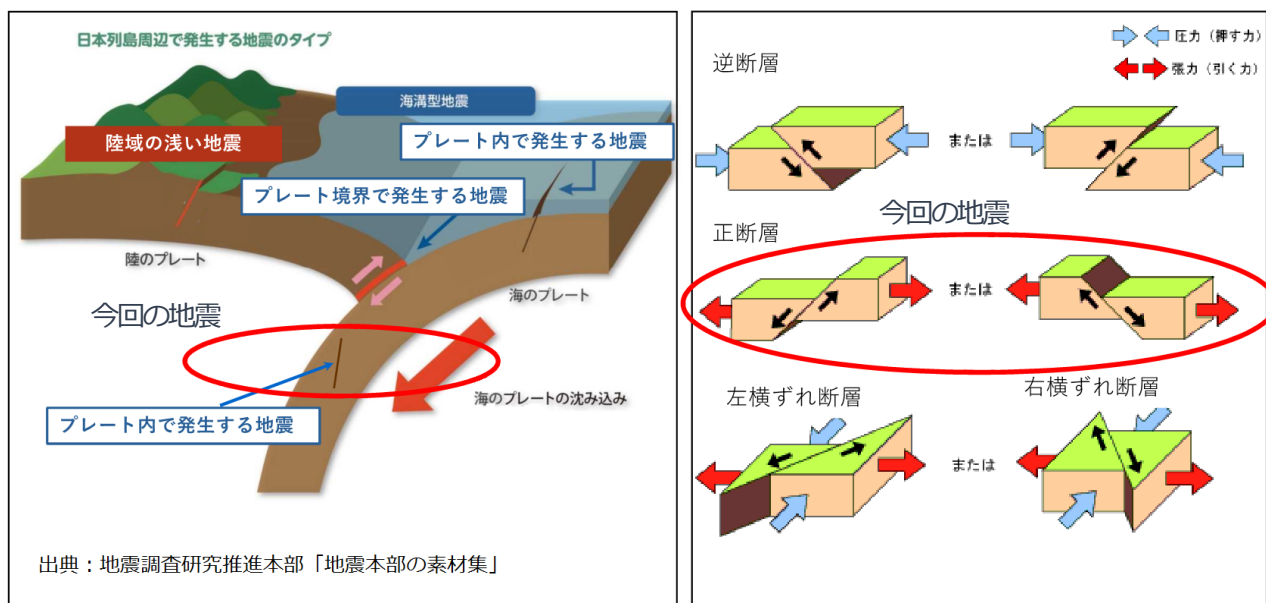


図3 地震調査研究推進本部ホームページ「地震本部の素材集」の図に加筆

参考資料

- ・報道発表資料「令和6年4月の地震活動及び火山活動について」 令和6年5月10日 近畿・中国・四国地方
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2405/10a/2404kinki-chu-shikoku.pdf>
- ・南海トラフ地震関連解説情報について ―最近の南海トラフ周辺の地殻活動― 令和6年5月9日
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2405/09a/mate01.pdf>
- ・地震調査研究推進本部ホームページ「地震本部の素材集」
https://www.jishin.go.jp/resource/material_collection_etc/

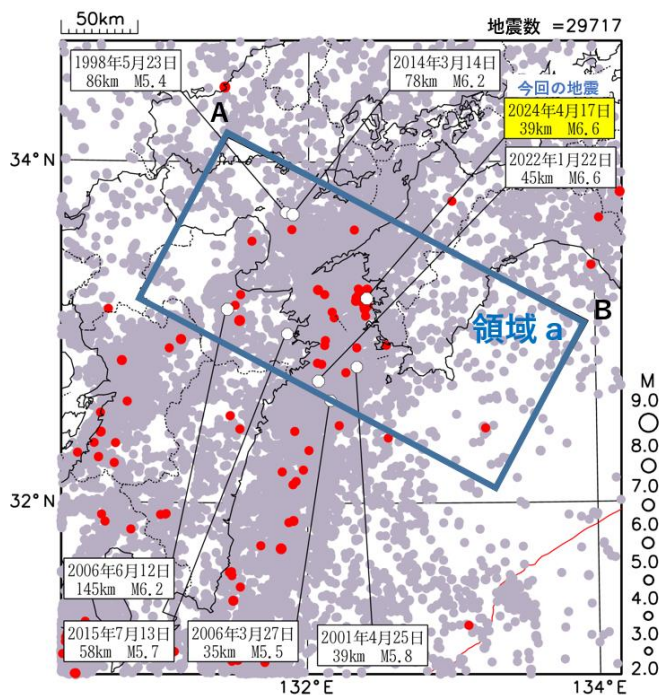


図4 左図：1997年10月1日から2024年5月20日までに発生したM2以上の地震の震央分布図
2024年4月15日～5月20日の地震を赤色で表示

右上図：領域a内で発生した地震を南西側から見た場合の断面図 2024年4月15日～5月20日の地震を赤色で表示

右中図、右下図：右上図内の領域bにおける地震活動経過、及び回数積算図 2024年4月15日～5月20日の地震を赤色で表示

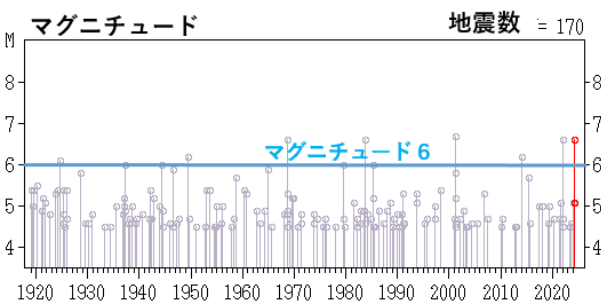
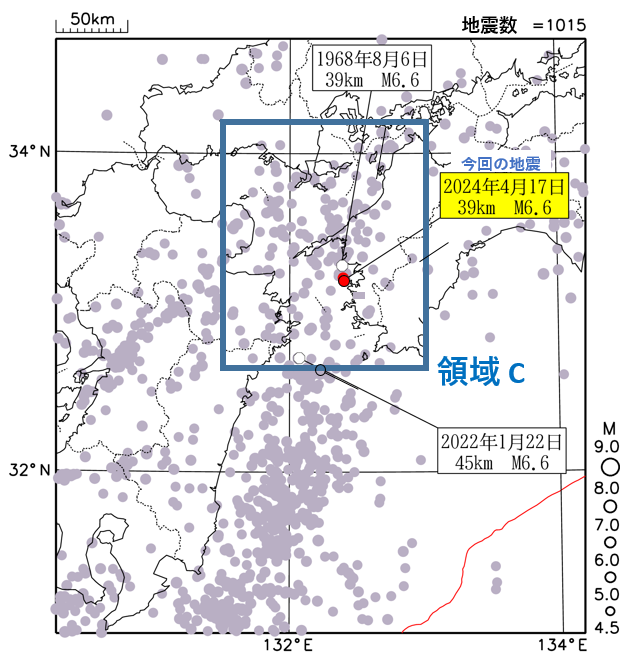
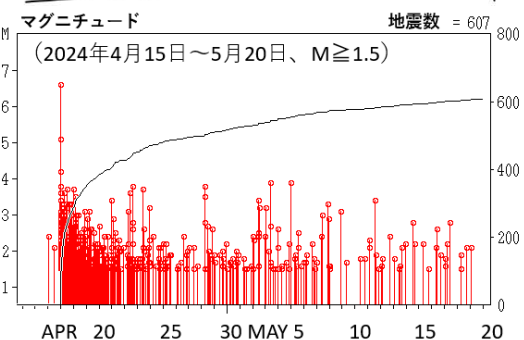
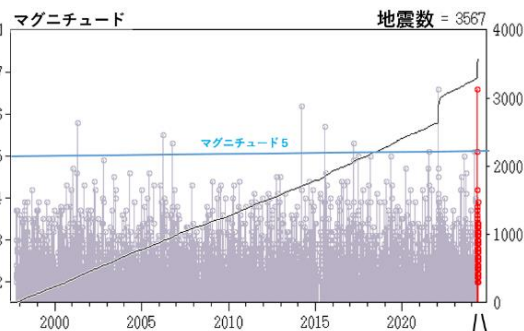
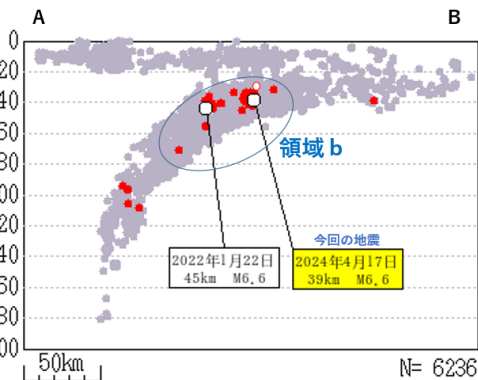


図5 左図：1919年1月1日から2024年5月20日までに発生したM4.5以上の地震の震央分布図
2024年4月15日～5月20日の地震を赤色で表示

右図：領域cにおける地震活動経過図
2024年4月15日～5月20日の地震を赤色で表示